２０１８年　定時社員総会　議事録

開催日時：平成３０年６月１日（金）　１４時～１６時

会　　場：食糧会館（全米販）　５階　Ｂ会議室　中央区日本橋小伝馬町 15-15

ＴＥＬ　０３－４３３４－２１５５

東京都中野区弥生町一丁目１７番３号

一般社団法人　日本飼料用米振興協会

理事長　海老澤　惠子

一般社団法人　日本飼料用米振興協会

２０１８年　定時社員総会　議事録

開催日時　平成３０年６月１日（金）　１４時～１６時
会議場　　食糧会館（全米販）　５階　会議室　中央区日本橋小伝馬町 15-15
　　ＴＥＬ　０３－４３３４－２１５５

議決権のある社員総数　　２３個
出席正社員（木徳神糧株式会社）
出席正社員（生活クラブ事業連合生活協同組合連合会）
出席正社員（ヤンマーアグリジャパン株式会社）
出席正社員（全国農業協同組合連合会）
出席正社員（昭和産業株式会社）
出席正社員（ＮＰＯ未来舎）
出席正社員（中野区消団連）
出席正社員（羽賀育子）
出席正社員（海老澤恵子）
出席正社員（信岡誠治）
出席正社員（岩野千草）
出席正社員（谷井勇二）
出席正社員（若狭良治）
議決権行使書（シンジェンタジャパン株式会社）
議決権行使書（株式会社秋川牧園）

正社員（中国工業株式会社）
正社員（木村洋文：個人）　　注：木村牧場
正社員（個人）　　注：滋賀県飼料米利活用推進協議会
正社員（谷　清司　個人）
正社員（菊地　実　個人）
正社員（吉瀬雅彦　個人）
正社員（谷口信和　個人）
正社員（石澤直士　個人）

出席社員の議決権の数　　１５個
オブザーバー（傍聴）　　１名（賛助会員　太陽工業株式会社）　注：西村　哲

【議　事】

第１議案　開会に当たって

1. 開会挨拶と資格審査報告

理事・事務局長　若狭良治は、２０１７年度　正社員数２３中、本人出席（１３）・議決権行使書（２）で２０１８年６月１日開会時現在、定足数満たしていることを報告した。

2. 議長選出

定款第 13 条～16 条の定めにより、代表理事　海老澤恵子が議長に就いた。
議長は、出席を確認し、本定時総会が適法に成立したことで開会を宣言し、直ちに議事に入った。

3. 議長挨拶

私たちの振興協会は、設立後５年目となりました。昨年度の事業として、農林水産省と共同開催で第２回目となる「飼料用米収量日本一表彰事業」を実施しました。また、一般社団法人日本養豚協会の申し入れにより第１回目となる「飼料用米活用畜産物ブランド日本一表彰事業」を実施しました。

また、設立一年目より、「超多収穫米普及連絡会」以来の伝統を受け継ぎ、通算８～１１回目となる「飼料用米を活かす日本型循環畜産推進交流集会～飼料用米普及のためのシンポジウム～」を引き続き開催してまいりました。

今年は「飼料用米多収日本一・畜産物ブランド日本一表彰式、飼料用米普及のためのシンポジウム２０１８」としてさらに発展をしてまいりました。

来年３月１５日に、通算１２回目として「飼料用米多収日本一表彰式・畜産物ブランド日本一、飼料用米普及のためのシンポジウム２０１９」を東京大学・弥生講堂で開催することで会場の確保を行いました。

飼料用米については、様々な状況の下で進んでおりますが、ＴＰＰ１１やそれに発生する「主要農作物種子法廃止法」の様々な影響が今後出てくる状況が予測されています。

食糧安全保障の面や食の安全や食料自給率の向上などの面で、今後の問題を注視していくことが重要となります。

皆様と多くの課題について検討を加え、進んでいきたいと思います。

これから皆様で審議決定していただく活動方針を高く掲げて、共に飼料用米の普及と食糧自給率の向上を目指してまいりたいと思います。本日はよろしくお願い申し上げます。

第Ⅱ議案　２０１７年度活動報告（２０１７年4月1日～２０１８年3月末）

１．表彰事業

「飼料用米多収日本一表彰事業」を平成２８年度（２０１６年度）についで平成２９年度（２０１７年度）事業として農林水産省政策統括官付穀物課と共同で開催しました。

事業を推進するにあたり、全国農業協同組合中央会（全中）、全国農業協同組合連合会（全農）、協同組合日本飼料工業会に金銭面で多大なる後援をいただいています。表彰事業の運営費用にしております。日本振興協会では特別会計として処理をしています。

また、日本農業新聞からは表彰状、褒賞（副賞盾）でご協力をいただいています。

平成２８年度より始まった農林水産省の助成事業「飼料用米活用畜産物ブランド事業」の日本一を表彰するコンクールが平成２９年度より開始され、事業実施団体である一般社団法人日本養豚協会（会長　志澤勝　（有）ブライトピック／神奈川県）より、当協会のシンポジウムでの実施開催協力の要請に基づき、海老澤会長と若狭事務局長が渋谷区代々木の本部を訪問し意見交換を行いました。

平成２９年度事業の表彰式として、多収日本一事業表彰式と合同で行いました。

２．調査研究事業

「飼料用多収穫米の栽培に関する研究」を前年度に引き続き、全国農業協同組合連合会、東京農業大学農学部畜産学科畜産マネジメント研究室、日本飼料用米振興協会の三者で行いました。

オオナリ、関東飼２７１号を栽培しました。

「飼料用米普及のためのシンポジウム２０１８」で信岡誠治教授が２００４年～２０１７年の１４年間の飼料用米の研究成果である「飼料用米の低コスト生産の展望について」と題して報告しましたが、その中の２０１６年、２０１７年の取り組みとして報告をいただきました。

本事業は東京農業大学畜産学科の廃止に伴い２０１８年度は実施しません。

３．産地調査視察（木村牧場（巨大ビニールハウス）、ＪＡ加美よつば農協　視察）

２０１７年9月２１日～２２日の日程で、理事会メンバーを中心に、産地視察を実施しました。

訪問先は、青森県の株式会社木村牧場と宮城県のＪＡ加美よつば農協です。

木村牧場は東京農業大学の信岡教授が指導をしてきました飼料用米の籾米を超微粉砕粉にして給与する方法を採用していますが、原料となる飼料用米を農家から直接買い入れ、巨大ビニールハウスを建設し、バラ保管をしている様子を詳細に視察しました。

ＪＡ加美よつば農協のカントリーエレベーターの建設から現在の利用方法について詳細に説明を受けました。騒音問題などで住宅地近隣での建設が難しかったことなど重要な指摘がありました。

４．コメ政策の今後の方向についての意見交換会

「コメ政策の今後の方向についての意見交換会」を２０１７年１１月１５日、食糧会館、参加者８０名で開催しました。

主食用のコメについても、食味の向上が全国的に取り組まれ、多くの銘柄米が生まれてきましたが、コストは上昇し、世界的な穀物の需給状況に対応したコスト競争に対応できるようにすることもとも求められています。一方、一人当たりの食用米の消費高は減少を続いており、年間８万トン減少が続いています。

私たちは、日本の国土に適した水田耕作を活かし、主食用米、飼料用米を問わず「多収量米」の普及を目指してきました。今後の食糧の自給率の向上を目指すうえでも、国産米の今後の動向はたいへん関心の高いところです。

このような機会に、コメに対する関心を高め、今後の方向性を模索するための意見交換をしたいと考え、この意見交換会を昨年に引き続き開催しました。

◆ **主催：一般社団法人　日本飼料用米振興協会（Ｊ－ＦＲＡ）**

◆ **開催日時・会場：２０１７年11月１５日（水）　13:30～16:45　食糧会館会議室**

◆ **問題意識：**平成30年産（２０１８年）から、日本のコメ政策は大きくカジを切り、国による米生産数量目標の「配分」はなくなり、全国の需要量の見通しを示す「情報提供」に変わります。
また、10aあたり7,500円の米の直接支払交付金は廃止となります。

① 基調報告、基調講演など

開会挨拶　Ｊ－ＦＲＡ・海老澤恵子理事長欠席のため　若狭良治　理事・事務局長

基調講演　「農政の課題について」　　農水省政策統括官穀物課・小口悠課長補佐

基調講演　「7,000ｔ入る巨大ビニールハウス」

㈱木村牧場・木村洋文　代表取締役社長（青森県・養豚事業者）

意見発表～意見交換会：進行役は東京農業大学・信岡誠治　教授（Ｊ－ＦＲＡ理事）

② 意見発表を以下の方々にご相談し、アドバイスをいただきました。

コメ卸団体　（全国米穀販売共済協同組合：全米販　加瀬　栄　業務部長

飼料業界　　昭和産業株式会社飼料畜産部：多田井　友揮　担当

物流資材　　太陽工業㈱　物流システムカンパニー　西村　哲　マーケット部長

の皆様に話題提供をしていただきました。

話題提供者から各自５分程度でそれぞれの課題を提起していただき、参加者全員でのディスカッションを行いました。

③ 課題まとめ～閉会挨拶：加藤好一（副理事長：生活クラブ事業連合生活協同組合連合会 会長）

５．シンポジウム２０１８、資料展示、試食会の開催

会場の東京大学弥生講堂の確保では農学部鈴木宜弘教授にご尽力いただきました。感謝申し上げます。

２０１８年３月９日に東京大学弥生講堂（一条ホール・ロビー・会議室）で通算１１回目となる「飼料用米普及のためのシンポジウム２０１８、資料展示、試食会」を開催しました。

参加者２８０名で盛会でした。

●後援窓口の変更

農林水産省政策統括官付穀物課を窓口にして農林水産省の後援を受けた。

任意団体の「超多収穫米普及連絡会」時代から生産局畜産部畜産振興課や飼料課を通じて農林水産省の取り組み政策についての報告をいただき、法人化を実現した２０１４年４月以降のシンポジウムの農林水産省の後援窓口をしていただいてきましたが、今年３月９日の「シンポジウム２０１８」から農林水産省の意向により穀物課に窓口を変更しました。

●「飼料用米普及のためのシンポジウム２０１８」の実施

第一部（午前の部）

主催者挨拶　一般社団法人　日本飼料用米振興協会 理事長　海老澤 恵子

連帯の挨拶　日本生活協同組合連合会　　専務理事　和田 寿昭
挨拶 農林水産省生産局畜産部飼料課流通飼料対策室　室長　三上 卓矢
基調講演　　「水田フル活用と飼料用米の定着に向けて」
　　農林水産省政策統括官穀物課課長　堺田 輝也
第二部（午後の部）
特別報告　　飼料用米の低コスト生産の展望について
　　東京農業大学畜産マネジメント研究室 教授　信岡 誠治
活動報告１　養豚経営における飼料用米活用（集荷から給与までの流通改革）
　　株式会社木村牧場 代表取締役社長　木村洋文
活動報告２　「お米育ち豚プロジェクト」利用を広げる取り組みについて
　　コープデリ生活協同組合連合会 CSR 推進室　　室長　岩佐　透
活動報告３　飼料用米を活用した耕畜連繋と銘柄卵の確立
　　農事組合法人会田共同養鶏組合　　組合長理事　上村博文
閉会挨拶　　一般社団法人　日本飼料用米振興協会　副理事長　加藤　好一
　　（生活クラブ事業連合生活協同組合連合会　会長）
開催した試食会、資料展示会も弥生講堂のロビーや会議室で開始して充実したものとなった。

●資料展示のご紹介　（ロビー展示）

東京農業大学農学部畜産マネジメント研究室（飼料用米の低コスト生産など）
農事組合法人会田共同養鶏組合（温泉たまご）
太陽工業株式会社（飼料用米の屋外・常温保管ユニット）
昭和産業株式会社（オール国産配合飼料使用鶏卵：和のしずく）
株式会社木村牧場（粉砕籾米飼料用米給与の養豚事業と巨大ビニールハウス籾米の保管）
中国工業株式会社（飼料用米粉砕添加装置マイスター）
雪印種苗株式会社（稲ＷＣＳ　籾米用乳酸菌）
東都生活協同組合（資料配布）

●試食のご紹介　（ロビー展示）

農事組合法人会田共同養鶏組合（温泉たまご）
昭和産業株式会社（オール国産配合飼料使用鶏卵：和のしずく）
株式会社木村牧場（粉砕籾米飼料用米給与のつがる豚）

６．会員動向

事業体正社員
新たにヤンマーアグリジャパン株式会社が加入しました。

事業組織としては、
木徳神糧株式会社、生活クラブ事業連合生活協同組合連合会、中国工業株式会社、株式会社秋川牧園、シンジェンタ・ジャパン株式会社、全国農業協同組合連合会、昭和産業株式会社
と合せて８事業体となり、事業運営に資金的に厚みが増した。引き続き、新会員の拡大に努める。

非営利事業体正社員、個人正社員
中野区消費者団体連絡会、ＮＰＯ未来舎、木村牧場、東京農業大学畜産学部、（個人会員省略）

事業体賛助会員、非営利団体賛助会員
日本生活協同組合連合会、生活協同組合おかやまコープ、庄内みどり農業協同組合、株式会社平田牧場、栃木開拓農業協同組合、滋賀県飼料米利活用推進協議会、太陽工業株式会社、加美よつば農協
ＪＡくみあい飼料株式会社

広報活動

ホームページの内容については、農林水産省との共同事業の掲載などで、閲覧者が12,600件となり、1年間で倍増しました。今後、更にわかりやすい掲載スタイルで一層の閲覧者の拡大を図りたい。

以上について、議長は審議を進め、意見を募ったが特に意見はなく、審議を終了し、採決を行った。
全員の賛成で議了した。

第Ⅱ議案　２０１７年度決算報告承認の件（２０１７年４月１日～２０１８年３月末）

（１）　日本飼料用米振興協会　本体事業　決算（案）

2017年度 活動計算書(決算／予算対比)

2017年 4月 1日から2018年 3月31日まで

一般社団法人日本飼料用米振興協会

単位:円

科　　目	金　　額	
	2017 年度予算	2017 年度実績
Ⅰ 経常収益		
1 会費収入	1,180,000	1,040,000
2 入会金収入	100,000	50,000
3 協賛金	200,000	300,000
4 研究委託費	240,000	241,920
5 振替金	300,000	300,000
6 雑収入	0	222,865
7 受取利息	0	4
経常収益計	2,020,000	2,154,789
Ⅱ 経常費用		
旅費交通費	150,000	161,842
通信費	60,000	31,080
会議費(シンポ会場等)	100,000	236,220
資料購入費	40,000	33,732
資料作成費	220,000	248,650
事務用品費	120,000	450,025
講師謝礼	200,000	84,210
租税公課	120,000	70,000
外注費	300,000	458,664
支払報酬(会計事務所)	80,432	80,000
事務費	756	4,158
飼料用米栽培研究費	0	120,960
広告宣伝費	0	64,800
予備費	30,000	0
経常費用計	1,421,188	2,044,341
当期経常増減額	598,812	110,448
Ⅲ 経常外収益	0	
経常外収益計		0
Ⅳ 経常外費用		
経常外費用計		0
税引前当期正味財産増減額		110,448
当期法人税、住民税及び事業税		0
当期正味財産増減額		110,448
前期繰越正味財産額		20,193
次期繰越正味財産額		130,641

貸借対照表

2018年 3月31日現在

一般社団法人日本飼料用米振興協会

単位:円

科　　目	金　　額		
Ⅰ　資産の部			
1　流動資産			
現金及び預金	377,935		
未収入金	0		
流動資産合計		377,935	
2　固定資産			
固定資産	0		
固定資産合計		0	
資産合計			377,935
Ⅱ　負債の部			
1　流動負債			
未払金	247,294		
預り金	0		
流動負債合計		247,294	
2　固定負債			
固定負債	0		
固定負債合計		0	
負債合計			247,294
Ⅲ　正味財産の部			
前期繰越正味財産		20,193	
当期正味財産増減額		110,448	
正味財産合計			
負債及び正味財産合計			130,641
			377,935

財 産 目 録

2018年年 3月31日現在

一般社団法人日本飼料用米振興協会

単位:円

科　　目	金　　額		
Ⅰ　資産の部			
1　流動資産			
普通預金(三菱 UFJ 銀行八王子支店)	377,935		
未収入金	0		
流動資産合計		377,935	
資産合計			377,935
Ⅱ　負債の部			
1　流動負債			
未払金			
未払金合計	247,294		
預り金(源泉所得税)	0		
流動負債合計		247,294	
負債合計			247,294
正味財産			130,641

(2)　特別会計 飼料用米多収日本一表彰事業

2018 年度 活動計算書(予算)
2018年 4月 1日から2019年 3月31日まで

一般社団法人日本飼料用米振興協会

(1)収入の部

科　　目	2017年度実績		2018年度計画	
	計画	実績	計画	実績
Ⅰ　経常収益				
繰越金(預金)	1,116,770	1,116,670	1,648,030	
特別会計協賛金	2,800,000	2,800,000	2,800,000	
経常収益計	3,916,770	3,916,770	1,822,030	

(2)支出の部

科目	2017年度実績		2018年度計画	
	計画	実績	計画	
資料費	20,000	20,044	25,000	
会議費	93,000	116,428	120000	
広報費用	500,000	216,540	250,000	
ホームページ管理費	100,000	100,000	100,000	
旅費	1,201,350	944,678	1,200,000	
表彰式経費	918,000	842,194	900,000	
通信費	10,000	20,000	20,000	
諸掛	10,000	8,000	10,000	
調査費	0	0		
予備費	0	0		
支払い消費税	0	0		
残高証明書(銀行)	0	756	1,000	
合　計	2,324,000	2,268,640	2,626,000	

繰越金	1,116,670	1,116,670	1,648,030	
今年度収入	2,800,000	2,800,000	2,800,000	
総支出	2,324,000	2,268,640	2,626,000	
残　額	1,592,770	531,360	174,000	
今年度繰越金	1,592,770	1,648,030	1,822,030	

なお、表彰式に関しては、飼料用米多収日本一表彰事業特別勘定で使用全額を別途徴収した費用で補てんしました。飼料用米畜産物ブランド日本一表彰事業は、別途分担金を事務局である一般社団法人日本養豚協会に請求し本体会計として補填処理しました。

飼料用米多収日本一表彰事業の直接費用は、次の通りです。

事　項	実　績
表彰式、シンポジウムの資料配布負担分	２０，０４４円
表彰式（花代　22,000 円）	１６，５００円
会場使用料分担金	３３，５６２円
広報費用　飼料用米多収日本一　ホームページ運営管理費	３１６，５４０円
審査員の審査委員会出席（10 人うち行政１名）	１１６，４２８円
受賞者表彰式出席　１１組	９４４，６７８円
賞状（筆耕料）　東京書技房	４６，８７２円
副賞（楯）（12 枚）	３２４，０００円
表彰式胸バラ章	３３，９００円
金屏風　6 曲一双	３０，０００円
平成２９年度　飼料用米多収日本一表彰式　自立横看板	３６，０００円
会場設営、撤去	９９，０００円
運営費　カメラマン、作業員等を含む	１２９，０００円
審査委員会、表彰式の開催案内郵送	２０，０００円
振込手数料等	８，０００円
消費税	込み
支出合計	２，１７４，５２４円
収入合計（後援費用）後援費は、全中、全農、飼料工業会が供出	２，１７４，５２４円
過不足	０円

貸借対照表

2018年 3月31日現在

一般社団法人日本飼料用米振興協会

単位:円

科　　目	金　　額		
Ⅰ　資産の部			
1　流動資産			
現金及び預金	1,674,708		
未収入金	0		
流動資産合計		1,674,708	
2　固定資産			
固定資産	0		
固定資産合計		0	
資産合計			1,674,708
Ⅱ　負債の部			
1　流動負債			
未払金	26.670		
預り金	0		
流動負債合計		26.670	
2　固定負債			
固定負債	0		
固定負債合計		0	
負債合計			26.670
Ⅲ　正味財産の部			
前期繰越正味財産		1,116,770	
当期正味財産増減額		531,360	
正味財産合計			
負債及び正味財産合計			1,648,030
			1,674,708

財 産 目 録

2018年年 3月31日現在

一般社団法人日本飼料用米振興協会

単位:円

科　　目	金　　額		
Ⅰ　資産の部			
1　流動資産			
普通預金(三菱 UFJ 銀行中野支店)	1,674,708		
未収入金	0		
流動資産合計		1,674,708	
資産合計			1,674,708
Ⅱ　負債の部			
1　流動負債			
未払金			
未払金合計	26.670		
預り金(源泉所得税)	0		
流動負債合計		26.670	
負債合計			26.670
正味財産			1,648,038

以上について、議長は審議を進め、意見を募ったが特に意見はなく、審議を終了し、採決を行った。
全員の賛成で議了した。

第Ⅲ議案　２０１８年度（平成３０年度）活動計画（２０１８年4月1日～２０１９年3月末）

１．表彰事業計画

第３回目となる「平成３０年度　飼料用米多収日本一表彰事業」を開催します。
キックオフミーティングを行いました。
２０１８年（平成３０年）　４月１７日　１５：００～１６：００
農林水産省　２１７号会議室
出席
農林水産省　政策統括官穀物課　企画班　企画係長　足立　隆文　、小池　リリ子
　　々　　政策統括官米麦流通加工対策課　課長補佐　大石　満芳
　　々　　消費流通第１斑　　米国消費流通第一係長　関口　尊雄
JA 全中　　森田　　謙三、
JA 全農　　遠藤　雄士、
協同組合飼料工業会　久田　和弘
日本農業新聞　　髙川　麻緒、
飼料用米振興協会　　海老澤、若狭

２０１８年４月２７日に農林水産省がニュースリリースで５月１日から６月２９日の間、参加農家を公募することを広報しました。
同日、日本飼料用米振興協会のホームページに掲載しました。

２．調査研究事業計画

これまでの全農、東京農業大学、日本飼料用米振興協会の三者による栽培試験委託実験事業は終了したことから、新たな研究事業の策定を開始する。

３．産地調査視察事業計画

第２回目の産地視察として、九州（大分、福岡）、山口地方の飼料用米生産や集荷の状況、養鶏、鶏卵等の事業状況を視察する。視察時としては９月めど。

４．意見交換会計画

今年は米作の根本が変更になり、飼料用米をめぐる状況も大きく変化することが予測されます。
今年は、６月～７月に穀物課との意見交換を行い、１１月に第３回目となる「コメ政策と飼料用米の今後に関する意見交換会」を開催する。

５．シンポジウム２０１９、資料展示、試食会等計画

通算１２回　飼料用米を活かす日本型循環畜産推進交流集会
飼料用米多収日本一・畜産物ブランド日本一表彰式、
飼料用米普及のためのシンポジウム２０１９

日　　時　：　平成 31 年 3 月 15 日（金）　開場：10:30　　開会：11:00
会　　場　：　東京大学弥生キャンパス　弥生講堂（一条ホール、ロビー、会議室）
プログラム
11:00～12:00　**飼料用米普及のためのシンポジウム２０１８　第一部**
12:00～13:00
展示、試食、休憩　（資料展示　ロビー、試食会　会議室）
13:00～14:10　**表彰式**
平成３０年度　飼料用米多収日本一表彰式
主催：一般社団法人日本飼料用米振興協会、農林水産省
後援：全国農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会、協同組合日本飼料工業会
協賛；日本農業新聞賞
平成３０年度　飼料用米畜産物ブランド日本一表彰式
主催：一般社団法人日本養豚協会　　後援：農林水産省、全国農業協同組合中央会
公益財団法人中央畜産会
14:10～14:30　**休憩　舞台装置変更**
14:30～16:30　**飼料用米普及のためのシンポジウム２０１８　第二部**
16:30～16:45　**閉会挨拶**　**０**
17:30～19:00　**情報交流会（希望者　3,500 円）**
農学３号館（正門正面の建物地下）東大生協食堂

６．会員拡大計画

年間通じて、新会員の拡大に努める。

以上について、議長は審議を進め、意見を募ったが特に意見はなく、審議を終了し、採決を行った。
全員の賛成で議了した。

第Ⅳ議案　２０１８年度予算案の提案および審議

（1）会費収入計画

会員会費	事業体	1,100,000 円	
入会金	事業体	50,000 円	
協賛金		300,000 円	
分担金		300,000 円	（日本一事業、多収）
分担金		200,000 円	（日本一事業、ブランド）
概算収入見込み		1,950,000 円	

（2）特別会計　　飼料用米終了日本一表彰事業

繰越金	1, 648, 030 円
後援金	2,800,000 円
概算総予算枠	4,448,030 円

（1）　　本体会計　飼料用米振興協会（決算見通しおよび新年度予算計画案）

科　　目	2017年度実績		2018年度計画	
	計画	実績	計画	実績
Ⅰ　経常収益				
1　会費収入	1,180,000	1,040,000	1,100,000	
2　入会金収入	100,000	50,000	50,000	
3　協賛金	200,000	300,000	300,000	
4　研究受託費	240,000	241,920	0	
5　振替金	300,000	300,000	300,000	
6　日本養豚協会より分担金		222,865	200,000	
7　雑収入（金利）	0	4	0	
経常収益計				
	2,020,000	2,154,789	1,950,000	

Ⅱ　経常費用				
交通費	150,000	161,842	200,000	
通信費（インターネット等）	60,000	31,080	31,080	
会議費（食糧会館等）	100,000	58,320	60,000	
東京大学弥生講堂		177,900	180,000	
資料（書籍）購入費	40,000	33,732	35,000	
資料作成費（印刷費）	220,000	248,650	250,000	
事務用品費	120,000	450,025	150,000	
講師謝金	200,000	84,210	100,000	
租税公課（都区税）	120,000	70,000	70,000	
外注費	300,000	458,664	300,000	
東京農業大学栽培研究費		120,960	0	
会計事務所監査費用（吉野会計事務所）	80,432	80,000	80,000	
事務費（振込費用）	756	4,158	5,000	
広告宣伝費（日本農業新聞）		64,800	0	
予備費	30,000	0	30,000	
経常費用計	1,421,188	2,044,341	1491080	
当期経常増減額	598,812	110,448	458,920	
Ⅲ　経常外収益	0			
経常外収益計	0			
Ⅳ　経常外費用				
経常外費用計	0			
税引前当期正味財産増減額	0			
当期法人税、住民税及び事業税	0			
当期正味財産増減額	598,812	110,448	458,920	
前期繰越正味財産額	20,193	20,193	130,641	
次期繰越正味財産額	619,005	130,641	589,561	

以上について、議長は審議を進め、意見を募ったが特に意見はなく、審議を終了し、採決を行った。
全員の賛成で議了した。

第Ｖ議案　定款に基づき、役員の改選を行った。

現在役員の重任と新規に昭和産業株式会社飼料畜産部の阿部健太郎部長の推薦があり、議長がその可否を問うたが、異論なく全員の選出を行った。
全員、出席し、役員就任を承諾した。

理事　海老澤惠子　中野区消団連（副会長）
理事　加藤好一　生活クラブ生協事業連合会（会長）
理事　若狭良治　NPO未来舎（副理事長）
理事　木村友二郎　木徳神糧㈱　顧問
理事　信岡　誠治　有識者　前東京農業大学農学部　教授
理事　遠藤雄士　全国農業協同組合連合会　課長
理事　谷井勇二　有識者　元全農職員
理事　阿部健太郎　（昭和産業株式会社飼料畜産部長）
監事　岩野千草　中野区消団連

総会を一時中断し、全役員で第１回理事会を開催した。

理事会を終了し、総会を再開した。
海老澤議長が理事会の結果について報告した。
三役を互選により選出し、全員の承諾を受けた旨を報告し、参加者一同了承した。
理事長　　海老澤　惠子（重任）
副理事長　　加藤　　好一（重任）
理事・事務局長　若狭　　良治（重任）
議長は以上で全ての議題が終了したことを宣し、議長を解任し、海老澤惠子理事長が挨拶を行い閉会した。

２０１８年6月１日

議事録を作成し、以下、理事、監事が捺印した。

理事長　　海老澤　惠子　以下印略

副理事長　　加藤　好一

理事　　木村　友二郎

理事　　阿部　健太郎

理事　　遠藤　雄士

理事　　信岡　誠治

理事　　谷井　勇二

理事・事務局長　　若狭　良治

監事　　岩野　千草